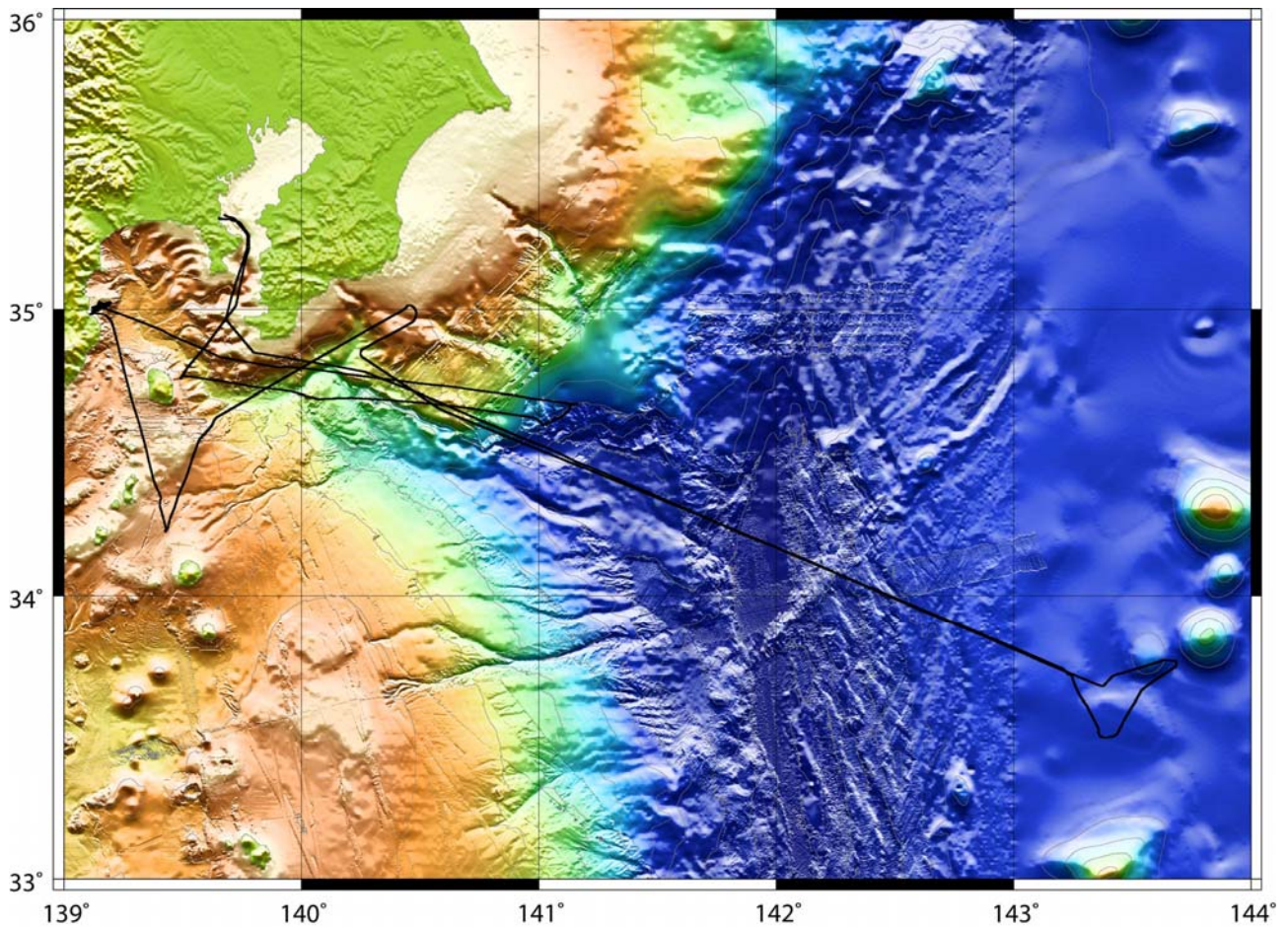


提出日平成21年9月7日

クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KR09-07・かいれい
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成21年度「高精度地殻構造探査に係る相模湾・房総沖での構造探査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：三浦誠一・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：深尾良夫・海洋研究開発機構
- (5) 課題受付番号・研究課題名：高精度地殻構造探査に係る相模湾・房総沖での構造探査研究
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：
平成21年7月5日～7月12日・横須賀～横須賀
- (7) 調査海域：房総沖
- (8) 船舶の航跡図：



2. 本文：

(1) 目的：

平成 21 年度所内研究課題「高精度地殻構造探査に係る相模湾・房総沖の構造調査研究」の一環として、深海調査研究船「かいれい」により、房総沖において、マルチチャンネル反射法（MCS）探査システムを用いた反射法地震調査を実施する。

房総沖はフィリピン海プレートと太平洋プレートがともに沈み込む複雑なテクトニクス場である。また、同時に巨大地震やスロースリップといった多様な地震活動が起こる場でもある。沈み込むフィリピン海プレートは、いわゆる典型的な海洋性地殻ではなく島弧地殻である。これら複雑なプレート形状や陸側プレートの変形様式の把握、および広域テクトニクス場理解のため、高精度の構造イメージングを行う。

本航海のデータは、IODP プロポーザル“関東アスペリティプロジェクト（KAP）”において提案している掘削地点周辺のサイトキャラクター化に資するものとなる。航海中は、地震探査調査と併せて、海底地形観測や重力探査、地磁気探査を並行して実施する。

(2) 実施項目：

1) マルチチャンネル反射法地震（MCS）探査

総容量 7800 立方インチのチューンドエアガンアレイを震源部とし、グループ間隔 12.5m で 444ch の hidroフォンストリーマーを受震部とする MCS システムを用いて、房総沖にて MCS 探査を実施した。

2) 海底地形・地磁気・重力観測

航海中は海底地形・地磁気・重力観測を連続して実施した。海底地形は SEABEAM2112.004 によって、地磁気は船上三成分磁力計によって、重力は船上重力計によって観測した。

3) XBT

海底地形調査の音速補正用に XBT を 2 箇所で行った。